

# さけ・ます増殖管理推進事業（サクラマス）

伊勢谷 修 弘

## 【目的】

サクラマスは2～5月に本県沿岸の釣り、定置網などで漁獲され、サケより量は少ないものの、高品質で単価が高いため、沿岸漁業の重要魚種として位置付けられている。

また、サケと異なり、淡水域に移行しても経済的価値の変化が少なく、魚体も大きいことから、河川漁協、遊漁者のサクラマス増殖への期待は大きく、その基礎知見を得るために事業を行った。

なお、詳細は国庫補助事業である、平成12年度さけ・ます増殖管理推進事業（サクラマス）に報告するため、ここでは概要のみを報告する。

## 【方法】

### 1. 回帰資源量調査

沿岸・河川に回帰した親魚の標識魚の確認調査を行った。沿岸では市場調査により、漁獲された個体から、河川では採卵のための特別採捕許可により、阿仁川根小屋頭首工で採捕された個体や、河川内漁獲魚（調査票配布）から確認した。

### 2. 生産技術調査

主に内水面試験池において飼育したサクラマスを阿仁川本・支流に夏・秋・春の3回放流したが、その間の成長・歩留まり・選別状況・成熟雄の割合・スマルトへの移行状況・魚病発生状況などを調査した。

また、試験池で飼育している親魚の成長・歩留まり・採卵状況、及び、阿仁川ふ化場における天然親魚からの採卵状況を調査した。

## 【結果及び考察】

### 1. 回帰資源量調査

#### (1) 全県の漁獲量

平成12年のます類漁獲量は42トンで近年低迷傾向にあるが、平成11年の34トンより19%増加した。

#### (2) 回帰親魚の漁協職員による標識確認

平成12年1月から5月までの沿岸回帰親魚について、能代支所でリボンタグ標識魚が7尾、タグ跡が1尾、鰭切除が3尾、象潟支所ではそれぞれ3尾、0尾、49尾確認されている。リボンタグには秋と記入され、これを装着した個体は試験池で卵または稚魚から養成し、秋と春に阿仁川本・支流に放流した

群であることが確実であるが、沿岸採捕の鰭切除魚については他県由来の放流群の可能性もあり、今後の検討を要する。

#### (3) 他県からの報告

1月に黄色リボンタグ装着の回帰親魚が北海道幌別と紋別から各1尾、2月に石川県から赤リボンタグ回帰親魚が1尾報告された。

#### (4) 水産振興センター職員による調査

平成12年1月から5月まで延べ60回の市場調査を行ったところ、1,636尾のサクラマスから27尾の標識魚を確認し、本県で放流したりボンタグ装着魚は3尾、他に脱落が2尾、埋没が1尾であった。埋没の1尾以外は全て鰭切除個体であった。

なお、この中に北海道放流由来の個体が1尾含まれていた

#### (5) 特別採捕許可による親魚再捕

阿仁川に遡上した天然親魚を35尾捕獲したところ、鰭切除個体が4尾確認された。

### 2. 生産技術調査

(1) 平成12年7月11日から13年3月23日にかけて75,012尾の標識放流を行った。

#### (2) 阿仁川漁協等放流

本漁協では4月11日から20日までF<sub>1</sub>を40,000尾、F<sub>2</sub>を161,000尾生産し、この内、平均体重0.57～1.16gのF<sub>2</sub>稚魚を87,000尾阿仁川本・支流に放流した。

また、有用河川増殖対策事業により、早口川・小猿部川に各20,000尾放流した。

#### (3) 稚魚・幼魚の魚病発生状況

4月の搬入からの小型魚の減耗に加え、特に夏期の高水温時には細菌性鰓病、イクチオボド症、キロドネラ症、せつそう病が混合感染し、次々にへい死する水槽が出現した。

このため、1%食塩浴30～60分、フロルフェニコール製剤投与などを行ったところ、秋季にこれらの疾病はほぼ終息した。

#### (4) 遡上親魚調査

特別採捕により5月から8月にかけて35尾の親魚を採捕し、蓄養した。内訳は、雌24尾、雄10尾、不明1尾であった。9月には雌が9尾、雄が4尾生残し、蓄養中の歩留まりは37.1%となった。

(5) 池産親魚

①F<sub>1</sub>の1+ (1998年級群)

成熟雌が150尾 (24.0%、平均体重224g)、成熟雄が41尾 (6.6%、平均体重173 g)、次年度成熟見込みの個体が434尾 (69.4%、平均体重170 g) 出現した。

②F<sub>1</sub>の2+ (1997年級群)

成熟雌が360尾 (97.3%、平均体重323 g)、成熟雄が3尾 (0.8%)、非成熟が7尾 (1.9%) 出現した。

③F<sub>2</sub>の2+

成熟雌が101尾 (82.1%、平均体重319.7 g)、成熟雄が1尾 (0.8%)、非成熟が21尾 (17.1%、平均体重133.3 g) 出現した。

④繁殖形質調査

採卵は平成12年9月28日から11月6日に行い、全体では606尾の親魚から370千粒採卵し、1尾当たりの採卵数は611粒であり、前年の849粒より大幅に減少した。

発眼率は41.1~109.0%で、通算では86.6%であった。

(6) 阿仁川ふ化場から搬入したサクラマス

F<sub>1</sub>の平成12年秋季標識作業時における生残尾数は22,253尾 (平均体重16.8g) であり、搬入時からの推定生残率は45.7%と不調であった。また、春季には平均体重26.5 gの幼魚が7,877尾生残し、越冬時の生残率は98.6%であった。

F<sub>2</sub>の同年秋季標識作業時における生残尾数は19,611尾 (平均体重23.47g) であり、搬入時からの推定生残率は49.8%となった。また、春期には平均体重32.6gの幼魚が7,301尾生残し、越冬時の生残率は75.9%となった。このように低い生残率を示した原因として、サギ類やカラスによる捕食が相当数あったと推察される。

(7) 内水面試験池において採卵・育成したサクラマス

平成11年秋季に採卵し、育成したF<sub>2</sub>稚魚 (平均体重2.5g) は、平成12年7月11日に打当川の2カ所に脂鰭を切除して34,551尾放流した。

F<sub>3</sub>稚魚は秋期において11,696尾 (平均体重39.8 g) 生残し、さらに春期には平均体重17.3 gの幼魚が10,061尾生残し、越冬時の生残率は98.0%であった。